

ひとを育てる活動

ILSティヌオス校の新学期

高まる入学需要、持続可能な運営に向けて



8月22日、ILSティヌオス校で新学期が始まりました。幼児クラスは年中児が18名、年長児が20名、公立小学校への山道通学を心配する父母の要望に応じて新たに設けた小学生クラスには15名が入学しました。コロナウイルスを恐れ、公立より近隣のILSへという選択もあり、今後もILS入学の需要は高まりそうです。一方、生徒増に伴う人件費や教材費の増加、教室や椅子など不足する設備・備品への対応など、課題は増える一方です。

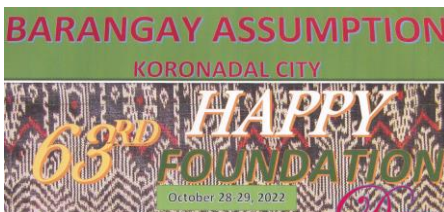
難問山積ですが、アニータ先生は持続可能な学校運営を目指し、家畜の繁殖事業(アヒル、豚、ヤギ)や学校農園事業(バナナ、アバカ)の拡大に加えて、父母が授業料を支払えるように、特に母親たちが組織する女性組合の収入向上プログラムを各種提案しており、私たちも食品加工のためのキッチンスペースづくり等を支援しました (P3参照)

アニータ先生の強みは、無農薬バナナについては、日本の生協をはじめ広く販路を持つレイクセブ在住のジェームズさんを通じて、また、ハンディクラフト製品についても、その販路がほぼ確保されている点です。

私たちも、チボリ支援会員の皆様のご理解をいただき、経営面ではすでに自立したと考えられるSCM校対象の原資の一部を、この辺境のチボリの子どもたちの教育普及に充当し、少なくとも次年度末までのあと1年半は、先住民族学校/ILSに対する定期支援を続けたいと思っています。

10月末に創立63年を迎えるボルール(アサンプション)村

私たちがボルールと呼ぶビラーンの村は、チボリの町レイクセブに先駆けてパッションスト修道会が1959年に学校を創設、村(バラングイ)の名称も「アサンプション(聖母被昇天の意)」としました。このビラーンの村初の教育施設CMB(現CMIP)ボルール小学校は15年前に公立に移管され、HANDS奨学生で初めての国家試験合格者メリアンが、今もその公立小で後輩たちを教えています。



バラングイ役場の書記で元奨学生ミエルナがデザインした63周年祝賀の幕。ビラーンのナバルタビ織も帯状に配置されています。

SCM創立61年目のお祝い、レムルナイフェスティバル

ウロ新学長への引継ぎセレモニーも行いました



9月16日にSCM/サンタクルミッション61年目の創立記念祭とレムルナイフェスティバルが開催されました。

ミサとチボリ伝統儀式のお祈り、職員による宣誓ののち、生徒によるチボリの伝統舞踊、フォークダンスやヒップホップダンスが披露され、最後に学長引継ぎのセレモニーが行われました。28年間学長を務めたガンダム氏は副学長となり、学長にウロ氏が着任しました。(P1 写真)

<CMIP短信>



幼児教育専攻2年生のルイス(22歳)

CMIPチャリスより、今年度の奨学生リストが届きました。小学生3名、ハイスクール16名、カレッジは帰省したまま戻ってこないという問題行動のあったオリエル(109号P2)に代わり、チボリ町バサグ在住のビラーン人、ルイスを入れて7名です。

CMIPからは、前年度の奨学金、カレッジ3万、ハイスクール6千、小学生1.2千(各ペリ)の使途詳細も届きました。

ご支援の皆様には別途報告させていただきます。

CMIP元奨学生の近況報告から

<2010年度卒業：クリストファー>



「サウジアラビアへ来て7年が経ちました。有難いことに、家族を養うことができます。奨学金でサポートしてくれたHANDSに改めて感謝しています」と、会計士の仕事は順調のようです。国家試験に一度で合格し、後輩の面倒見もよかったクリストファーが海外就労を選んだ時には少し残念に思いましたが、海外で働くことで貯金ができたり、身内を助けたり、ノビシエート寮生へカンパをするなど地元を思いやり、還元する姿は後輩にとって一つの目標となっていることと思います。

<2003年度卒業：スヌーリア>

キブラワン町プロルサロ村議員として、今はアトモロックと麓のベニグノアキノを結ぶ道路の舗装を担当しており、今後一層地域に貢献しようと、来年10月の村長選挙出馬も考えているということです。

